

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301609		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	031-0023 八戸市是川1-11-1		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市郊外の閑静な住宅街に位置しており、ホームの隣に公園がある。そこで散歩をしながら、ゲートボールしている方や子供達と挨拶しながら、公園に咲いている草花を楽しむことができる等、人と自然に触れることができる恵まれた環境である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にある事業所は、食堂から公園が見え、ゲートボールを楽しんでいる方や子供たちが遊んでいる様子が見られるとともに、四季の変化を楽しめる環境である。また、近隣には、幼稚園や保育園があり、その行事に招待されるなど、交流が活発である。「真心」という理念の下、入居者が笑顔で、本人らしく過ごしていけるよう日々努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関正面やスタッフルームに掲示され、日々の意識を維持するため、朝の申し送り前に毎日唱和して、実践につなげている。	「真心」という理念を職員の見やすい位置に掲示している。また、朝の申し送りやケア会議の前に唱和しており、寄り添う介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶する機会が増えてきており町内会の祭りや、近隣の幼稚園、保育園等の行事に参加することで日常的に交流している。	地域住民の一員として、町内会の草取りや夏祭りに参加し、交流を図ったり、幼稚園、保育園などの行事(七夕、運動会、ひな祭り)等に参加し、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で町内会の方に参加して頂いており、認知症の理解、支援について発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催しており、ご家族、利用者、市担当者、町内会の方、訪問看護師等を交えて、普段の様子や行事を報告し、意見や助言を頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の状況や行事の報告等が主になっているが、出席者の意見や要望も表せるように努め、双方向的な話し合いを行い、いただいた意見等はサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、関係者には定期的に運営推進会議に参加して頂いている。実情や取り組みについては、理解、把握をして頂いておりご意見を頂く等、協力関係を築いている。	日頃より困難事例に対しての相談や指導をいただいたり、「オレオレ詐欺」の情報提供などあり、連絡を密に取り合い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状況を常に観察し、職員同士が連携を取りながら徘徊のある方には見守り重視している。玄関の施錠はしておらず身体拘束は行っていない。	定期的実施している内部研修で身体拘束をしないケアについて周知されている。また、目につきやすい場所に掲示しており、職員同士が連携して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で定期的に学んでいる。また、日々の業務で職員間の声掛け、ケアの方法について話し合い、共有しながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者さんがおられる。研修については、今後必要性が高まると思われ機会があったら積極的に参加する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、不安や疑問点を伺いながら、十分な説明を行い理解、納得頂き、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中で、ご家族には面会時に利用者様の近況報告する際に、ご意見や要望を直接訴える機会を設けている。1F入口に、ご意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置しているほか、面会時等、日ごろから家族の要望等を引き出せるよう、話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や日々の業務の中で、職員間の意見や提案を聞く機会があり、運営に反映させている。また、職員間の連絡ノートを活用し、情報共有している。	日頃から意見や要望を言いやすい雰囲気ができており、職員はケア会議で意見を伝え、管理者は運営会議で報告・検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の業務内容の要望、希望がある際は出きるだけ配慮している。又、資格取得に対し積極的であり、向上心を持てるよう働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握し、個人によって時間をかける等、職員を育てる取り組みをしている。又、法人内別事業所とも連携は図れており、法人内外の研修参加に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、その他の外部研修に参加し、交流を図るなど相互研修の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を事前に行い、入居時に本人様やご家族からの要望を伺い、不安を解消できるよう寄り添うサービスを提供しながら、安心できる関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様と一緒に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。又、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、話しやすい雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の意見や意向を、しっかりと把握し、必要な支援を見極め、ケアプランを作成するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々利用者様の特性を見極めながら、家事など出来る事はして頂いている。お互いに教え合ったり、励ましながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には運営推進会議や、行事の参加を普段から促し、協力頂いている。他にも受診時の外出等、本人様を共に支えていく関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との面会時には歓迎している。また、ゆっくりと過ごして頂くよう雰囲気作りも心がけている。	面会は限定せず、積極的に受け入れている。また、なじみの美容院(床屋)の利用の継続等これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格や関係性を把握し、孤立しないよう席の配置等に配慮し、全員が関わり合えるように声掛けして、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、「何かあったらご相談ください。」と必ず声掛けしており、又、ご家族に会った際は、様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人様の言動や表情を観察し思いや希望を把握するように努め、困難な場合はご家族に聞いたりして、本人本位に検討している	入居時の意向確認のほか、日々入居者との関わりの中から思いの把握に努め、サービスの提供につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族、前任のケアマネジャーさんなどから情報収集し活用、生活歴や、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の特徴や、排泄のサイクル、その人の状態を把握し、その人に合わせたリズムでの対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や申し送りにて職員、又、日頃より本人様やご家族の意見を伺いつつ、現状に合った介護計画に反映し、作成している。	入居者、家族の意向、担当職員の意見が反映されたケア計画案をケアマネジャーを中心にサービス担当者会議で確認して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の評価をおこない、話し合った上で計画作成し、また、状態の変化が見られた際は計画見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診を支援したり、医療連携体制を導入したりし、利用者や家族の状況に応じたサービスをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に保育園との交流を行ったり、ボランティア等の把握、参加を促している。又、地域行事へも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に(月に2回)かかりつけの医者が往診して下さる。また以前から通っていたかかりつけ医の関係を大切に、通院を継続できるよう努めている。通院後は、家族に報告し共有が図られている。	入居時に協力医療機関に変更される家族もいるが、専門のかかりつけ医がある場合は、職員が事業所の車両を使用し、継続した受診の支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。日常的に情報交換を行い、状態変化時は相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中に職員が訪問し、今後の方向性について退院を含め話し合ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、医師の意見を伺い、早い段階から本人様、ご家族と話し合い同意書等も頂いており、実際に終末期ケアがおこなわれている。	入居契約時に説明を行い、家族の意向の確認が行われている。また、協力医療機関と訪問看護との連携も構築されており、終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習に参加している。又、マニュアルがあり急変時、速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を、毎月行っている。又、運営推進会議等の際に、地域の方々に協力をお願いしている。	昼夜における火災想定訓練は、地域の方々の協力の下、毎月実施されている。	自然災害への対応について早急にマニュアルの作成が必要との認識があるが、火災だけではなく災害想定訓練を取り入れることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、個々を尊重した声かけ、言葉かけを心がけ、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	内部研修において人格の尊重、プライバシー保護について共有されており、職員は日頃から意見交換し、情報の共有が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いや、希望を探ったり、一人ひとりが自己決定できるような場面を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や業務上の都合にとらわれず、個々のペースに合わせ、その日の体調や、気持ちを配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容を利用して頂き、本人の希望をとり入れている。又、洋服の購入時には本人に選んで頂いたり、事前に本人に好みを聞いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備時、食材をちぎってもらったりして利用者ができる事をして頂いている。又、利用者様の希望や、旬のものを取り入れたメニューにしている。	近所に畑があり、野菜を収穫して旬の食材を献立に取り入れている。毎週日曜日は、入居者の希望によりおやつ作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週に1回、栄養士の作成したメニューを提供している。むせ込みのある利用者様にはトロミをつけ、各々の状態に合わせお粥やミキサー食等を提供、栄養バランス、水分の確保に努めチェックし、情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは、個々の能力に応じた介助を行っている。義歯は毎日洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗を減らすように努めている。又、パットの時間帯によってパットの種類を変えたり、声がけの時間帯等個々に応じた対応をしている。	排泄パターンの把握や適切な水分補給、個々のリズムに合わせた誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や繊維質の多い食事の工夫等、自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日、時間帯は決められているが、個人の希望にて時間を変更したり入浴拒否の方は時間をずらして声がけし、気持ちよく入浴して頂けるよう一人ひとりに合わせた支援に努めている。	入浴の曜日や時間設定はあるが、入居者の希望を尊重している。また、入浴剤を変えたりして工夫を凝らし、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、体調・希望に応じ、自由に個々の居室やソファで休息して頂いている。日中、適度な活動を促し、生活リズムを作る事で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの既往や、薬の内容を把握、理解しており服薬確認を見守りや介助にて行っている。変更があった場合は情報を共有し、服薬後の観察を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事を把握し、その人らしく過ごせる役割がもてるよう支援したり、気分転換となるよう外出、行事等に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって散歩、ドライブ、買い物等に出かけている。家族の協力を得て、外出される方もいる。	本人の希望に沿って、近所の散歩やドライブ、買い物への外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等、本人の希望があれば支払いができるよう支援している。また、利用者様の家族の了承のもと、預り金帳にて金銭管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を利用して頂いている。また、手紙等がきた際はお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感のある花を飾っている。また、利用者様に不快な刺激がないよう採光、照明、室温等に配慮している。また、傾斜のある廊下には利用者様にわかるよう、傾斜ありのシールを床に貼っている。	食堂から見える公園は、四季折々の風景となり常に季節を感じられる。また、照明室温にも配慮があり、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った者同士が、思い思いに過ごせるよう、席の配置を工夫し、ホール内には、ソファを配置しており、独りで過ごせる自由な空間利用ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはお守りや写真等を飾っている。また、入居時に馴染みのある物を持ってきて頂き、できる限り自宅に近い雰囲気となるよう家族にも協力して頂いている。	持ち込みの制限はなく、本人の使い慣れた家具をもってきてもらい、各々が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、各居室には、わかるように表示している。また、環境整備する事で歩行の妨げにならないよう危険防止に努めている。		